提出日： 2025 年 4 月 17 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	大川真

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。				
	<table border="1"><tbody><tr><td>1. 2024年4月 1日 ～ 2025年3月31日</td><td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">1</div></td></tr><tr><td>2. 2024年9月 1日 ～ 2025年8月31日</td></tr><tr><td>3. 2024年4月 1日 ～ 2024年9月20日</td></tr><tr><td>4. 2024年9月21日 ～ 2025年3月31日</td></tr></tbody></table>	1. 2024年4月 1日 ～ 2025年3月31日	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">1</div>	2. 2024年9月 1日 ～ 2025年8月31日	3. 2024年4月 1日 ～ 2024年9月20日
1. 2024年4月 1日 ～ 2025年3月31日	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">1</div>				
2. 2024年9月 1日 ～ 2025年8月31日					
3. 2024年4月 1日 ～ 2024年9月20日					
4. 2024年9月21日 ～ 2025年3月31日					
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。				
	本研究では、従来の新井白石研究で手薄であった点、すなわち年号論に見られる朝幕の融和と分掌論、近衛家など公家との交流、新井家と新田諸家の関係、また徳川氏＝上野国新田庄出自論の創作に関する白石の関与、西洋文明・宗教観、また諸外国の国制観などをより掘り下げていき、新井白石の総合的研究を完成を目指して研究活動に従事した。				
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。				
	本研究では 2 回にわたる長楽寺文書(群馬県太田市新田荘歴史資料館)の調査にて、新田系図、また長楽寺住職・広海宛ての新井白石書簡などの調査・撮影を行った。また近年研究で新たな成果が出ている白石の武家儀礼論、雅楽論についても、新たに独自の知見を加えて論述した。上記の成果は、一般の読者向けに分かりやすく広く示すことを目的として、ミネルヴァ書房から評伝『新井白石—五尺の小身、すべてこれ胆—』として刊行される予定であり、すでに最終原稿を入稿済である。本評伝によって、新井白石が、「伝統」に根ざしながら現在の政治改革を行い、また現政権の政治責任を深く自覚した上で、朝鮮外交の刷新や朝幕関係の融和に努めるという良質な保守思想を持った稀代の政治プレイヤーであることを明らかにした。				
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。				
	新井白石研究の泰斗である宮崎道生氏の研究以来、新井白石に関する本格的な評伝は刊行されてこなかった。しかし本研究によって、最新の研究成果を盛り込んだ新井白石論が公刊されることとなり、学界に与える影響は少なくないと思う。 今後は、2020年から着手した皇統論(皇位継承論)との接続を図るべく、閑院宮家創設や家継と八十宮の公武合体論を白石が提唱する背景などへの考察に入っていきたい。				